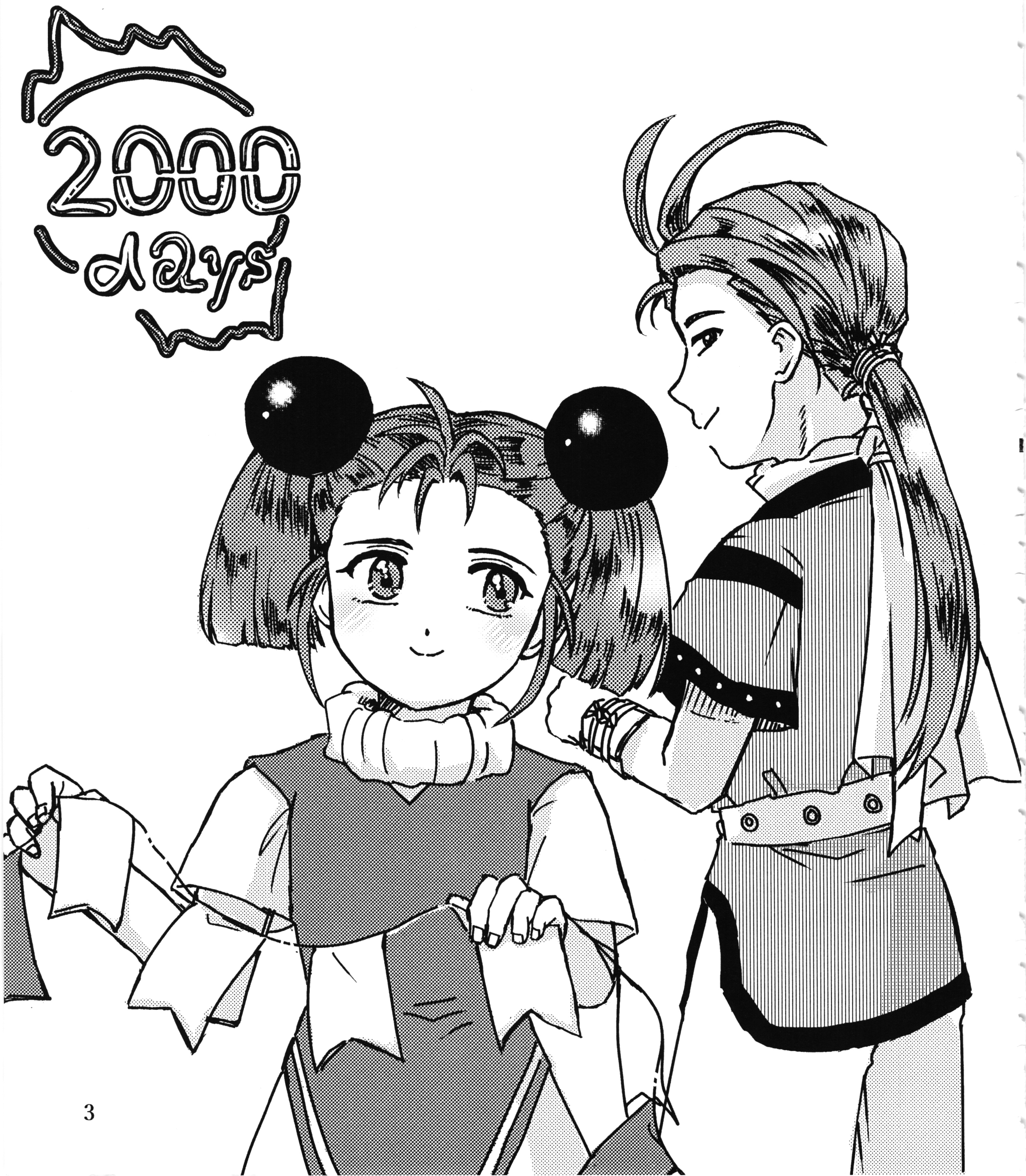
フェノメナルデイズ

Phenomenal days

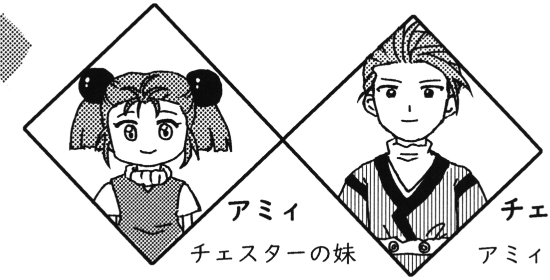


フェノメナルデイズ
Phenomenal days



おもな登場人物や設定

この本について。
テイルズオブザレイズにおいて、
アミィ生存IFという公式様からの
供給がありました。これは自分の
ために一度昇華させるほかには
ないと思い作られた一冊です。



ザレイズの主人公の世界（ティルナノーグ）について

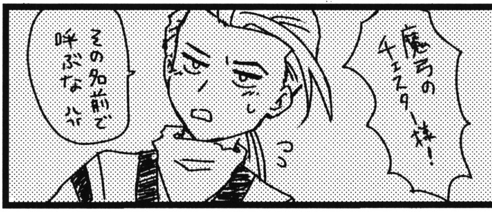
世界の破滅の危機を救うため
魔鏡術の力を持つ、イクスと
ミリーナにより異世界（原作
テイルズゲーム作品）の記憶
を持ったままのキャラクター
達が具現化（召喚的なこと）
された。

原作からの記憶は各作品により異なるが、ファンタジアメンバーの
記憶については概ねダオス決戦前の彼らであることが分かっている。

**チェスターはクレス達と
敵対関係にあった……！**

クレスと同じタイミングで
具現化されたが、時は同じでも
座標はズレていた。それ故に
チェスターはクレスがティルナ
ノーグに来ていることを知らず
ザレイズ主人公側と敵対関係に
ある組織に属することに。





敵対組織はアミィをはじめとした、
異世界で既に亡くなった人々をとある
理由でこの地に蘇らせようとしていた。
半信半疑ながら、妹が生きる可能性に
揺れ動くチェスター。
しかし最終的にクレスが協力している
イクスたちに同行することを決心する。

しかしアミィは具現化されて…?!

具現化の後に施された卑劣な実験により
リビングドールとなってしまったアミィ。
表情は笑顔のまま固まり、言葉も発さず
ただ存在するだけの状態だった。
自責の念に駆られるチェスター。



兄の頑張りと仲間の協力のもと、紆余曲折あり妹の心を取り戻した!!!

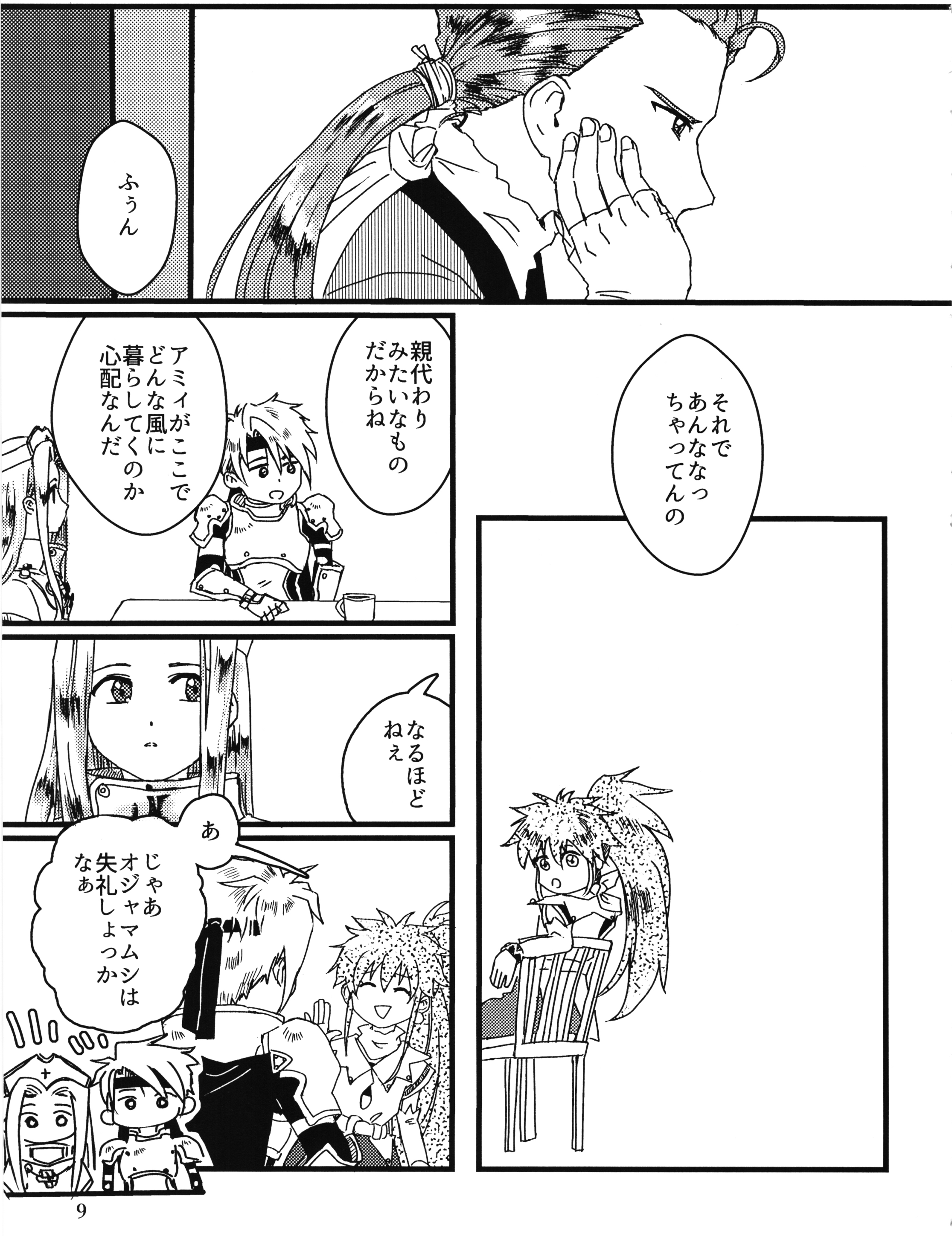


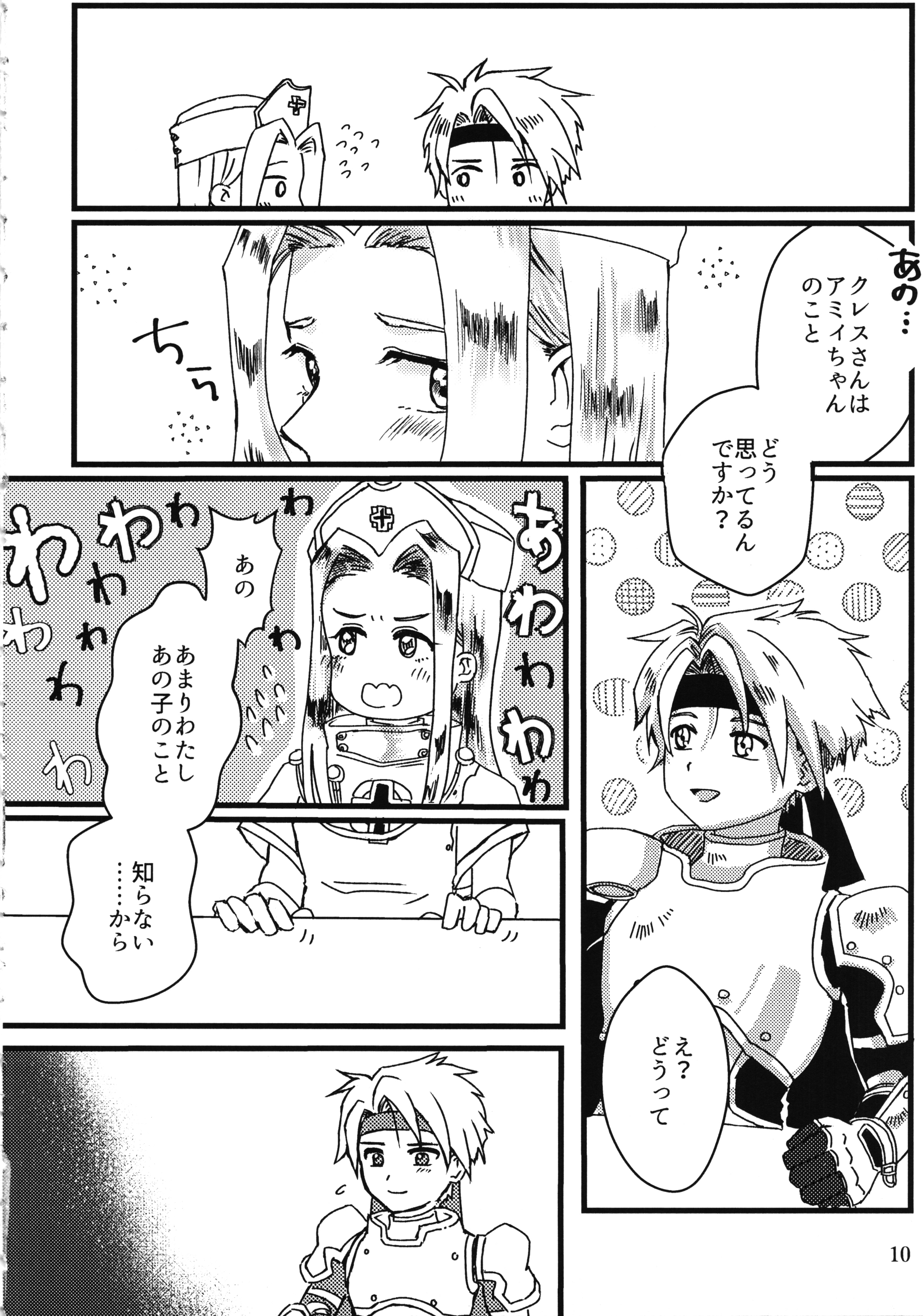
嘘を真実に変えるRPG――、
テイルズオブザレイズという
世界で生きるバークライト兄妹
のこれからが楽しみですね!!


これって…
たじっ
慣れてる俺の肌でこうだ
やわっちいお前の手じゃまずは血だらけになるだろうな
でもっお兄ちゃんはわたしよりうんと小さいときから弓を引いていたじゃない～
まぁなただ俺は男だ
！



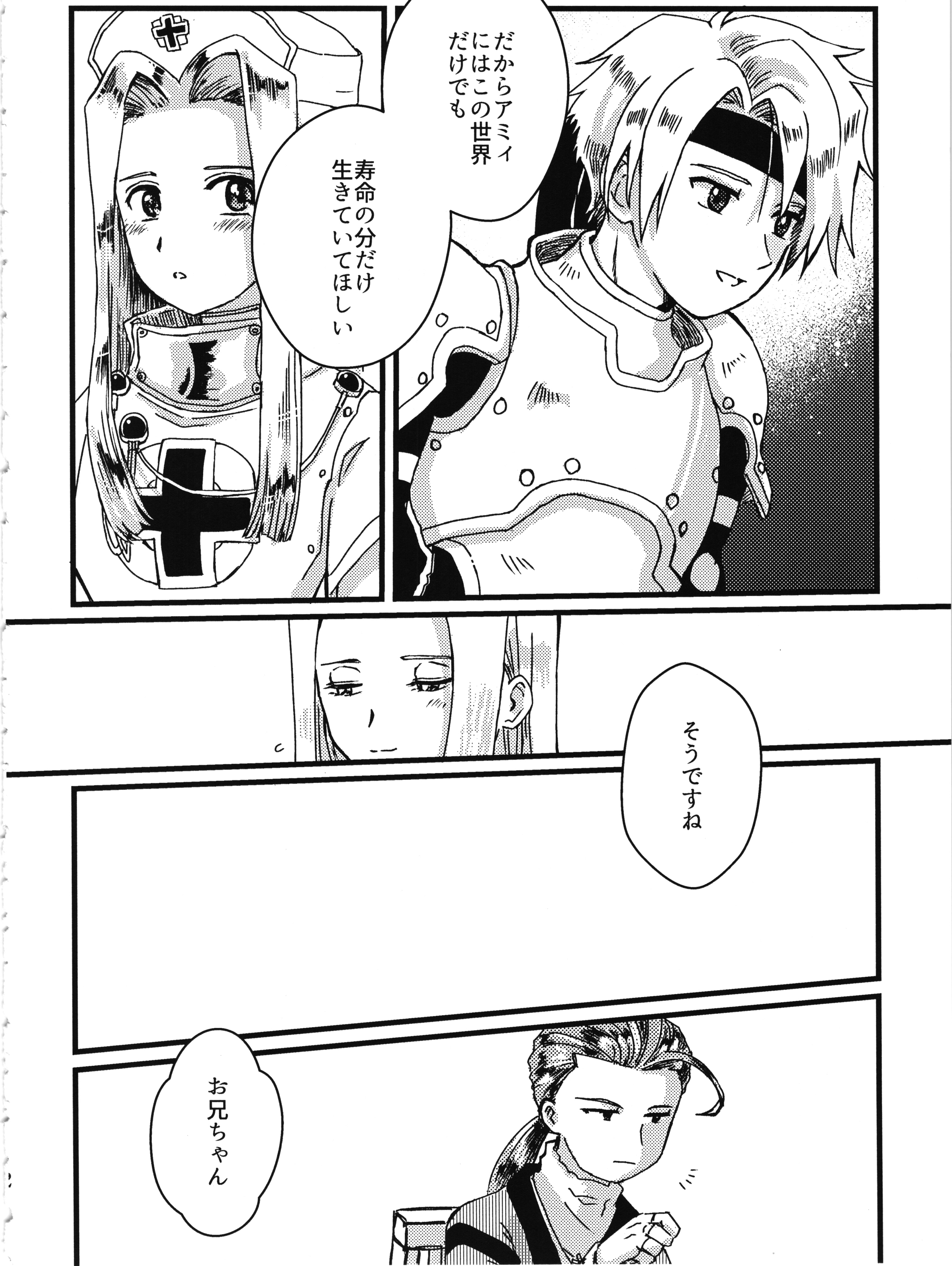
そんなの関係ないもん!!
ある
ないーー!
ある
なーーーーい!!
ぶすっ
ばー
お兄ちゃんの分からず屋!っしらない!
あっオイ…!!


ふぅん
それで
あんななっ
ちゃってんの
親代わり
みたいなもの
だからね
アミィがここで
どんな風に
暮らしてくのか
心配なんだ
なるほど
ねぇ
あ
じゃあ
オジャマムシは
失礼しょっか
なぁ

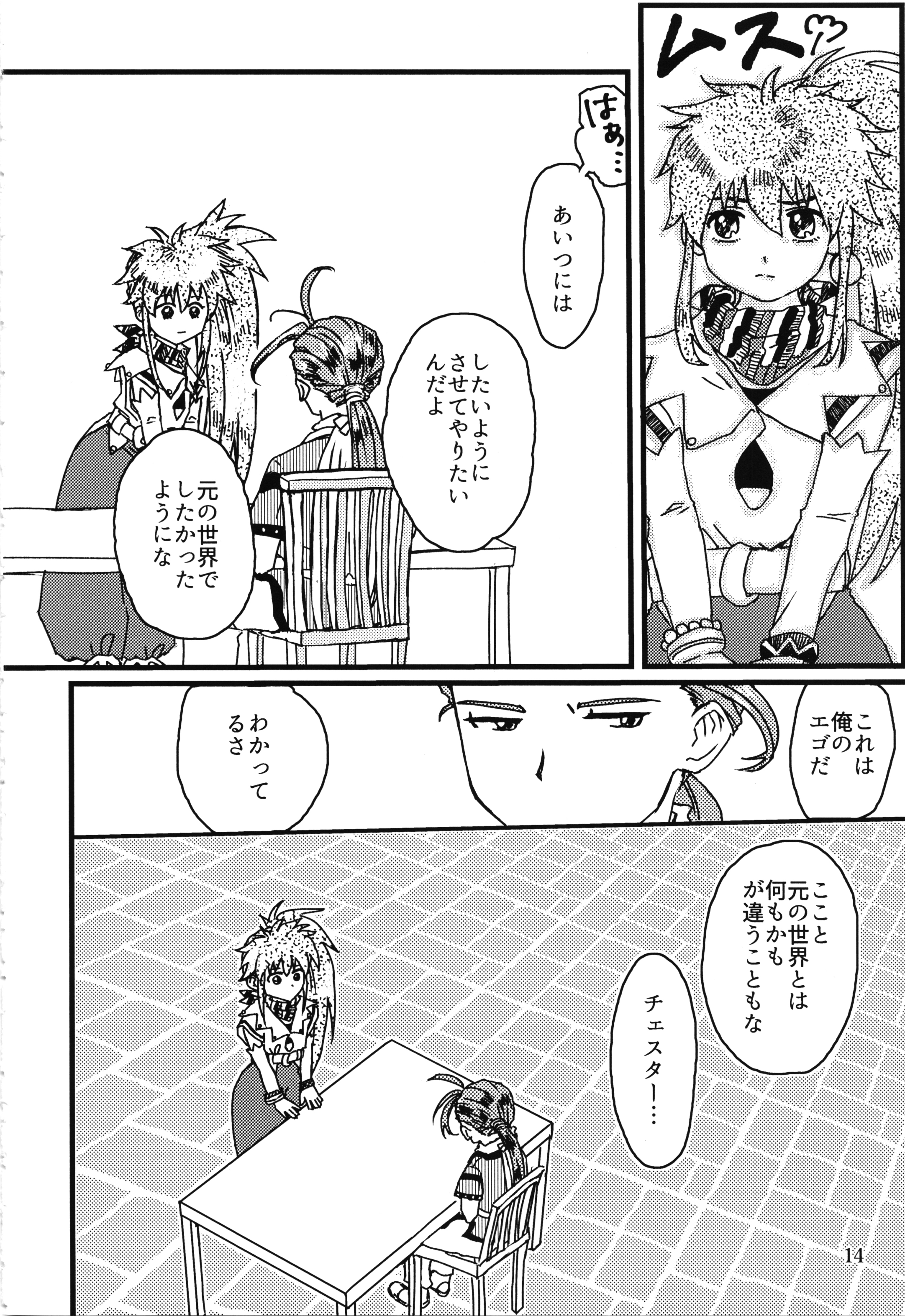


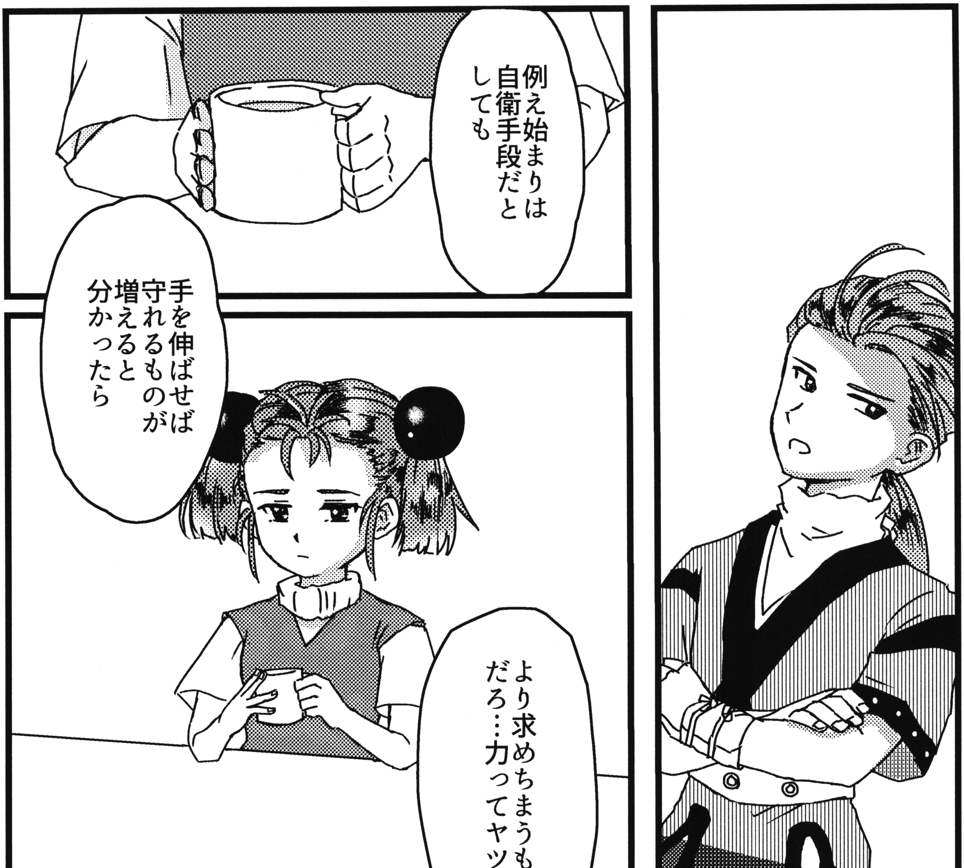
ちら
あの…クレスさんはアミイちゃんのこと
どう思ってるんですか？
え？どうって
あわわわわ
わわわわわわわわわ
あの
あまりわたしあの子のこと
知らない……から


あと一歩
あと10分でも早ければと何度思ったか分からない
救いたかった時間がここにあるって
やっぱり不思議だと思う

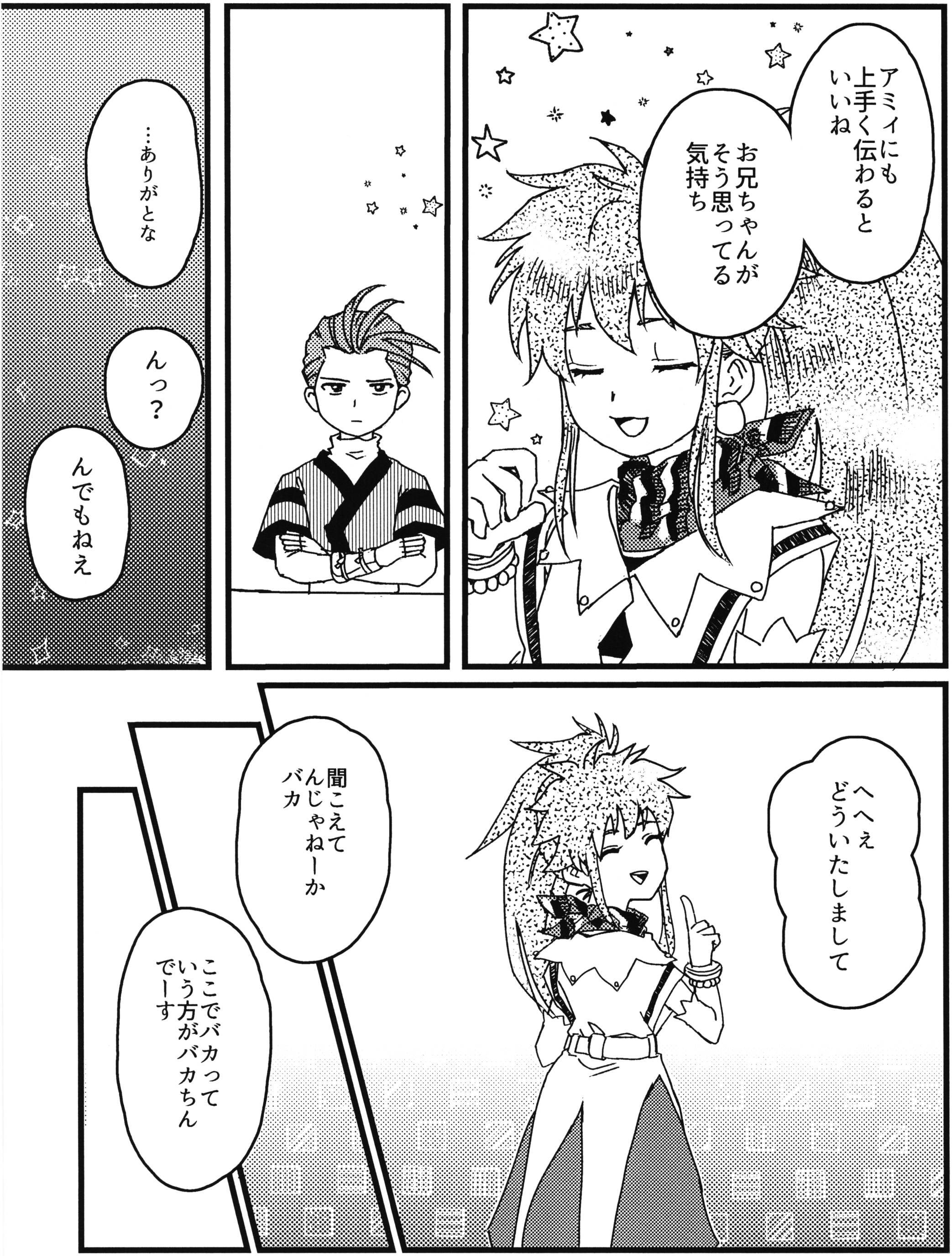

だからアミィにはこの世界だけでも
寿命の分だけ生きていてほしい
そうですね
お兄ちゃん


アーチェさんだよ〜〜!!
はーー
どういうつもりだよ気色悪
あーひど別に真似したわけじゃ無いってのー
だろーな似てねえし
ちょっとぉ八つ当たりやめてくんない
絡んできたのはソッチだろ
あのねぇ


ムス
はぁ…
あいつには
したいようにさせてやりたいんだよ
元の世界でしたかったようにな
これは俺のエゴだ
わかってるさ
ここと元の世界とは何もかもが違うこともな
チェスター…


例え始まりは自衛手段だとしても
手を伸ばせば守れるものが増えると分かったら
より求めちまうもんだろ…力ってヤツは
あいつが何を思って弓を習いたいんだかは知らねえが


ホント
妹が大事
なんだね～
む
どうとでも
言えよ
俺はもう
あいつのいない
世界なんて
――ッ！
わかるよ
うん
アンタの気持ち
わかる


アミィにも上手く伝わるといいね
お兄ちゃんがそう思ってる気持ち
…ありがとな
んっ？
んでもねえ
へへぇ どういたしまして
聞こえてんじゃねーか バカ
ここでバカっていう方がバカちんでーす

このお話はTOP会員制サークルに投稿した作品です。



スターフェスティバル

「毎度毎度、骨が折れる事をよくやるよな」
　彼女が手にしていた笹は軽く動かしただけでさらさらと心地の良い葉音を鳴らす。アミィや他の非戦闘員である者は季節によってアジトやケリュケイオンの飾り付けを行っていて、この場で生活する皆にとっては少しばかりの心の癒しでありこの笹もまたその一つだった。
「だって楽しいじゃない」
　きちんと役割を持ち、生活している妹の姿にチェスターは目を細めた。
　笹の枝に取り付けられた色とりどりの笹飾り。いくつかあるうちの中でも立体的に仕上げられているものもあり、材料は一枚の色紙のみ。そこへハサミを何度か計算通りに入れるとこれは出来るらしい。チェスターは初めて見た時にも感動してまじまじと見入ってしまった。その他にも色紙で作られた輪っかの飾りだってシンプルだが作るとなると手間がかかる。これらはもう何度か経験したことがある、この世界で七夕と呼ばれる夏の時節に行われるイベントの飾り付けだそうだ。
　来たるべきそのイベントのために準備している妹を見ていたチェスターとしては、七夕に限らずこういった手の込んだものを翌日には片付けてしまう度なんとなく勿体なく思えた。とはいえこの次の飾り付けの準備も同時進行で行われていて、次は向日葵を飾るらしく花屋で購入したものがカウンターに置かれ

ていた。
「この世界にはわたしの知らない文化や風習がたくさんあるのね。この笹だって――……」
「ああ、なんだっけな。王子様とお姫様が四六時中ラブラブし過ぎて仕事しねえから神様にいい加減にしろって怒られて」
「違……！わ、ないけど」
どうしてそこをピックアップするのかと不満げに妹はこちらを睨む。こうしてからかうのが楽しくて兄はくつくつと喉を鳴らし笑ってしまう。アミィは目に角を立てたが、すぐに気持ちを切り替えるように息を吸い込んだ。
「……そして罰として離れ離れになった二人があんまりに悲しそうにするから、年に一度は会えるようにって神様がお許しくださるんでしょ」
目をキラキラと輝かせ聴かせてくれたエピソードは、いかにもアミィの好きな種類の話だった。〝年に一度〟や〝神様〟や〝恋人との再会〟なんて設定は夢見る乙女にはたまらないのだろう。神様が許してくれる――これが転じて世間ではなんでも願いが叶う日となったらしい。なぜそれが笹なのかこの笹飾りにどんな意味があるのかについて、前に誰かが話していたのを耳に挟んだ気がしたが詳しくは忘れた。言い伝えである前半部分だけでお腹がいっぱいで興味がそこまで長続きしなかったのだ。

チェスターは肩を上げて鼻から息を吐いた。
「――で？」
「……、わたしがお願い事になんて書いたかって？」
全てを言わない問いにすぐにピンときた妹だったので満足そうに兄はコクコクと頷いた。しかし彼女は微笑みながらもゆっくりと視線を逸らし、答えはなかなか言わずにいる。
願いを短冊に書き笹に吊り下げる。叶うかどうかは置いておくとして、家族の、保護者がわりの彼が妹の願いくらい把握しておきたいのは当然の感情だろう。なにしろここでの生活は以前よりずっと質が良く、明日の食料や着るものに困ることはない。金だって討伐なり採取なりに行けば働いた分の報酬が出る。今の環境でなら妹が望むささやかなプレゼントくらいならない彼にも用意できるのだ。
「教えなーい」
笹を大事そうに抱えてそっぽを向くと菫色のツインテールが揺れた。素直に教えてくれるとは思っていなかったチェスターはとりあえず彼女が隠した手元をチラチラと盗み見ようとしたものの、その視線はすぐに気付かれてしまった。
「ちぇっ、そこに飾ってたってことはみんなは知ってるってことなんだろ？だったら」
「だーめ、ぜったいにやだー」
アミィは眉を下げ首を振り絶対拒絶とばかり唇を結んでいた。

こうなると聞かないのが彼の妹だ。
「はーん、まぁ大体わかるけどな。どうせクレスのこととかだろ」
「えっ……!?ちが、ちがうもん！」
唐突な人物の名に明らかに動揺したが、反応から推察するにクレス絡みでは無さそうな気がした。しかし名を出しただけでこの慌てっぷり、我が妹ながらやはり分かりやす過ぎやしないだろうかとチェスターはどこか不機嫌そうに目を細めた。
「じゃなに――……」
「お兄ちゃんは？」
「ああ？」
「お兄ちゃんが言ったらわたしも教えてあげる」
アミィは瞳をチェスターへ向けて突然切り替えした。彼女が一歩兄へ歩み寄ればまたさらさらさら、と笹の葉が揺れる。チェスターは願いなんて書いてなかったはずだったので軽く唇を尖らせた。
とその時、揺れるピンク色の短冊がたまたま目に入ってきた。
「『おいしいものがたくさん食べられますように』？」
この短冊の色、この文字の書き方、そしてこの願いに過ったピンク頭にぶはっと笑いがこみ上げてきてしまう。
「えっ」
唐突に笑い始めた兄に困惑するアミィは、しかしみるみる満面の笑みになった。
「このお願い、お兄ちゃんのだったんだ？」
「はぁ？なん――……」
「なに？何を食べたいの？わたし、なんでも作ってあげる！」
アミィは抱きつかんばかりの勢いでチェスターに歩み寄り見上げた。その嬉しそうな表情を見た途端チェスターの胸がギュッとする。
（これは、知ってる。……アミィの笑い方だ。アミィの声だ。アミィの。……願いなんてとうに叶ってる。もうこれ以上世界に何を望むってんだ？）
「ねぇ、お兄ちゃん！」
ハッと我に帰ると、チェスターの腕に触れた彼女の掌の体温がその命を証明していた。
「……ッ」
チェスターは昂った感情のまま唐突に抱きしめそうになってしまったが、一呼吸置きその手を握り拳に変えた。
「ああ、悪い悪い。じゃあ、リクエストは――……」
だから今更願いなんてなんだってよかったけれど、ひとたび心からの願いが叶ってしまうと、それ以上を欲しがるのが人間てものなのかもしれない。どうか、どうか彼女がいつまでも笑って〝生きて〟いけますように。

fin.

テイルズオブザレイズはアミィが生きている世界線。
ティルナノーグでの日々はきっと素晴らしいにちがいない!!!

この本は『アミィバークライトの非日常』を仮題にして、作業が始まりました。
もう少し軽いテイストの兄妹たちの話も妄想しているので、いつかどこかで
具現化出来たらいいなぁなんて思ってます。

今回原稿中にザレイズのメインシナリオをフルボイスで聞いたり読み返したりして、こんなに優しい地獄があるのかぁなんて改めて噛み締めました。
近々メインストーリーは一旦完結するみたいなのでイクス達がどんな結末を迎えるのか楽しみですね。今はゆるくザレイズ楽しんでますが、リリースからやり込みまくってました。この本を出すにあたりストーリーの復習ができてよかったなぁと思います。

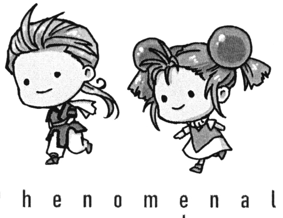
戦闘も楽しい！ボイスも聞ける！チェスターが立体！
テイルズオブザレイズ、ありがとう！

Special Thanks!

次ページよりゲスト様の原稿です!!!泣きながら土下座して助けてもらいました。

p 22 みずかさん(@mizka_n) アミィ可愛いねぇやさしいあにきだもんねぇ
p 23 sawaraさん(@sawara16012821) ハロウィンも楽しく過ごしてネッ！
p 24 山田ちうさん(@cucumber00) 優しい世界。クルール撫でたいなぁ。
p 25 おれんじさん(@meiple_Orange)マーボーカレーか…！う、うまい！泣

カニと宝箱／Balephire／もくりに付き合ってくれた皆さま／…and you！



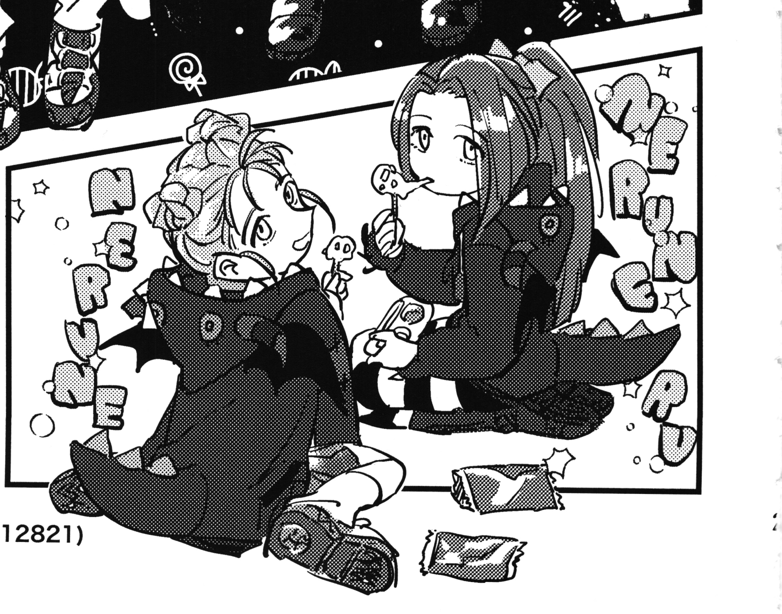
この原稿は締め切りがギュウギュウになってしまって
泣き言たくさん言ってたんですが、その度に励ましの
いいねやお言葉や、時には応援絵を描いてくださったり
と私は本当に幸せ者だなぁと実感してます。圧倒的感謝！

お年頃なので



みずか @mizka_n





ゲスト原稿にお招きいただき
ありがとうございます！
レイズ軸のバークライト
兄妹と聞き、妄想逞しく
しました。
このすずちゃんのハロ衣装が
大好きすぎて、アーチェと
ファルケンに着せた絵も
すでに描いてるので、
いつかチェスターが着てる
ところも描いてしまうかも
しれません…笑
sawara(@sawara16012821)



バークライト兄妹本発行おめでとうございます～!!
レイズ時空のチェスターのお兄ちゃん力(りょく)はどこまで広がるのか!? 妄想が捗ります…
山田ちう


Chester
und
Amy


わたしって
いったい何が
したいんだろう
せっかく救って
もらえた命
出来れば
誰かのために
何かのために
だけれど


わたしは何になりたかったんだっけ――？


お
うまそー
は
あー腹減った
食っていいか？
う、うん
ひょいっ
じゃ〜〜ん
うまそ


お兄ちゃん
あの
弓のこと
なんだけど
ふは
どーした
怖気づいたか
そ
そういう
ワケじゃ…
なくも
ないけど
怖くて当然
自分の放った矢が
誰かの命を
それだけじゃない
なにかを奪う


そんなのをやるのは俺らだけでいい
んー…
ず…
あのねわたしが今何をやりたいのかもう少し考えてみる


それで
できたのが この料理
そう たまねぎ フルコース！
うッ
いろんな人から クレームきてる んだからね
分かってる？
玉ねぎって いろんなレシピで 使われるの
それを いちいち文句 言わず
だらだら
だらだら
気持ち良く食べられるようにならないと！



fin.



さまざまなアミィ

どうしても描きたくて描いてしまいました、小説版アミィ。(左)
長らくこちらのキャラデザで認識していたので
ファンダムで一新された(右)の方になかなか慣れず
……とか言ってたら月日は経ちましたね～。わはは。
今やすっかり(右)アミィちゃんも好きです。

レイズは(右)なのでたくさん描きました！
というかもともとどちらも好きなんですがあの、
私が(右)を描こうとすると髪型のバランスがいかんせん難しく…ごにょにょ。みたいな諸事情で(左)を描きがちだったんでこの機会にたくさん描いてアミィマスターになるぞ！と、思ってたこともありました。(ました？)

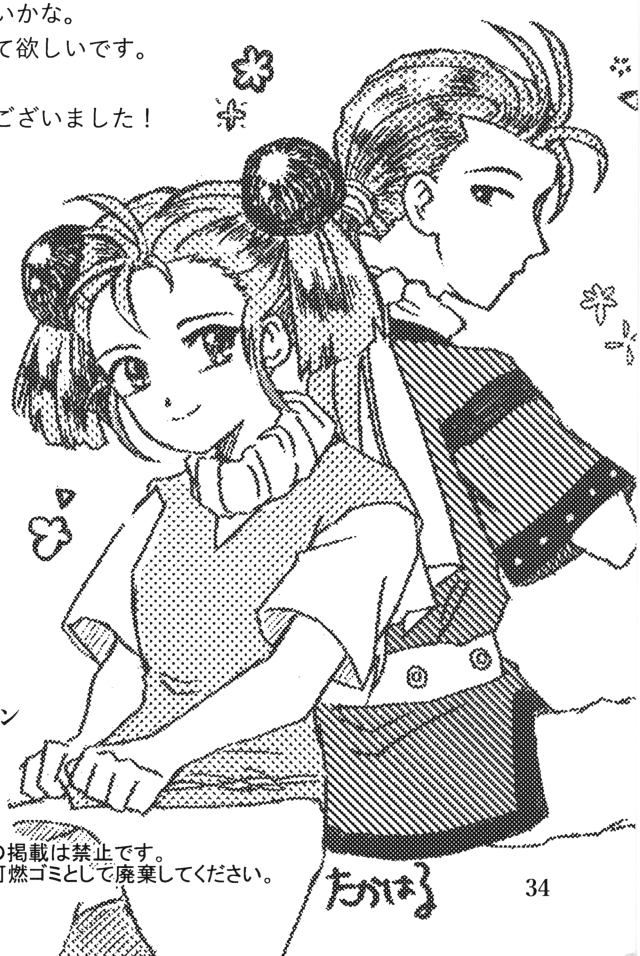
なんの話なんでしょうね？
いやぁ～～アミィが好きって話なんですよ！
アミィ～～～幸せになって～～!!
文字通り生きてるだけで尊いのでね、彼女は、はい。
レイズのストーリー完結するときになにかあるのかなにもないのかどうなんだ～～！
チェスター～～～アミィ～～～～～～幸せになって～～～!!!

念願のバークライト兄妹本です。
アミィが好きすぎて直近で描いた作品全部彼女がでてるな、と思いました。
多分まだまだ描いていくと思います。

タイトルを付けるのは毎度毎度苦しむんですがフェノメナルの他に
ヌーメノン、直訳だと「考えられたもの」「仮想物」が候補にありました。
これはチェスターの意識をサーチした他人から具現化された彼女にぴったりだな
と思ってたんですよね。ただレイズは明確に良し悪しの線引きはしないままに、
生まれたものを受け入れる、真実とする世界なので具現化され生まれたアミィも
具現化されたチェスターたちと同じフェノメノンつまりは「現象」であるんじゃないか
と思い直したりして。

あとは
Have a phenomenal day. 「素晴らしい一日を」
っていうイディオムを発見したのでもうこれだーってなりました。
急に知能が落ちた気がするな気のせいかな。
とにかく笑って泣いて怒って過ごして欲しいです。

ここまでお読みくださりありがとうございました！
それではまたいつかどこかで。



フェノメナルデイズ

発行日　2022.10.30
発行　たかはる
/たんたんたんたかターン
連絡先　a_souku@yahoo.co.jp
印刷所　ねこのしっぽ　様

Chester & Ammy
Barklight siblings

TALES OF PHANTASIA
in TALES OF THE RAYS
unofficial fanbook

Phenomenal days



